グローバル化する日本企業が求める機械系人材とは 小特集号発刊に際して

Expectations for Young Mechanical Engineers to be in Global Industries

福本 英士

Hideshi FUKUMOTO

◎1982年東大大学院原子力工学科
修士課程修了し(株)日立製作
所入社。機械研究所所長等を経
て2012年より現職。研究戦略立
案に従事。

◎主な研究・専門テーマは、電磁気
学及びその応用システム

◎正員、日立建機(株) 研究本部
研究本部長
(〒300-0013 茨城県土浦市神立
町 650/
E-mail : h.fukumoto.gm@hitachi-
kenki.com)

私たちを取り巻く環境はグローバルかつスピーディーに変化している。新興国の急拡大と先進国の市場停滞、地球規模の気候変動、都市への人口集中や少子高齢化などの人口動態変化、資源ナショナリズムをめぐる争い、既存組織の変革を迫る情報伝達のボーダレス化・迅速化、など枚挙に暇がない。企業にとっては、これらの変化は新たなチャンスであると同時に、対応に遅れた企業は否応なく衰退するという厳しい状況にある。まさに、ダーウィンの言葉とされる「**最も強いものや賢いものが生き残るのではない。最も変化に敏感なものが生き残る。**」が思い出される。

日本企業はこれまで高い技術力と高品質のモノづくりを核に世界に展開してきたが、昨今のグローバル潮流に合わせた新戦略やビジネスモデルの修正・転換の必要に迫られている。

本小特集号は、このように急激に変化するグローバル環境下で日本の機械系技術者に求められるものは何かを、企業の最先端で活躍されている方々から発信していただくことを企画した。とくに、これから社会に出ようとしている若い方々および後進の育成に腐心されている中堅幹部の方々に読んでいただけると幸いである。

最近、機械系技術者が主役を担ってきた製品・システム開発の分野では、生産拠点に加えて研究開発拠点の海外シフトが進みつつある。新興国は先端技術や人材育成の分野でも競争力を高めつつあり、それに日本国内の高い人件費と円高もあいまって海外シフトへの流れが加速している。国内拠点よりも海外拠点で働く従業員の方が多い状況が当たり前になりつつある。このような状況を国内雇用機会の縮小と悲観的に捉えるよりも、むしろグローバルに活躍する機会と場が広がっていると捉え何を準備すべきかを理解することは非常に重要なことである。

従来、高等教育では四力をはじめとする基礎学力の上に深い専門知識と洞察力を養い、企業に就職後に On the Job Training で事業遂行に必要な知識と経験を積み重ねていくというのが機械系技術者の一般的な育成パターンであった。しかし、学生時代から上述したグローバル変化に敏感な感覚を持ち、英語を代表とする豊富な言語でのコミュニケーション能力や異文化理解力を養うことで、世界を舞台とした活躍のチャンスが広がることは間違いない。大学教育もグローバル CoE (Center of Excellence) やリーディング大学院など改革が進みつつある。変化する企業の人材育成ニーズと高等教育とがベクトルを合わせてこれからの社会で即戦力として活躍できる人材を輩出することが、これからの日本の競争力強化に必須の課題である。この課題に沿ったシンポジウムや戦略議論が盛んになっている。

本特集号では、グローバル化の課題を肌で感じ変革を実践している方々から生の声を届けていただくことをお願いした。また、海外で新たな大学教育の創造にチャレンジしている方、企業と国にまたがって人材育成の改革にチャレンジしている方々に総論と展望の執筆をお願いした。快く執筆を引き受けてくださった皆様にご場を借りて感謝申し上げます。

本小特集がこれからの日本の機械系技術を担っていく若い人たちの一助になれば幸いです。

(原稿受付 2012年3月29日)

2012年5月号「グローバル化する日本企業が求める機械系人材とは」小特集号企画小委員会：主査 福本英士〔(株)日立製作所〕、委員 有信睦弘〔東京大学〕、田口裕也〔元日本機械学会会長〕、三木則尚〔慶応義塾大学〕